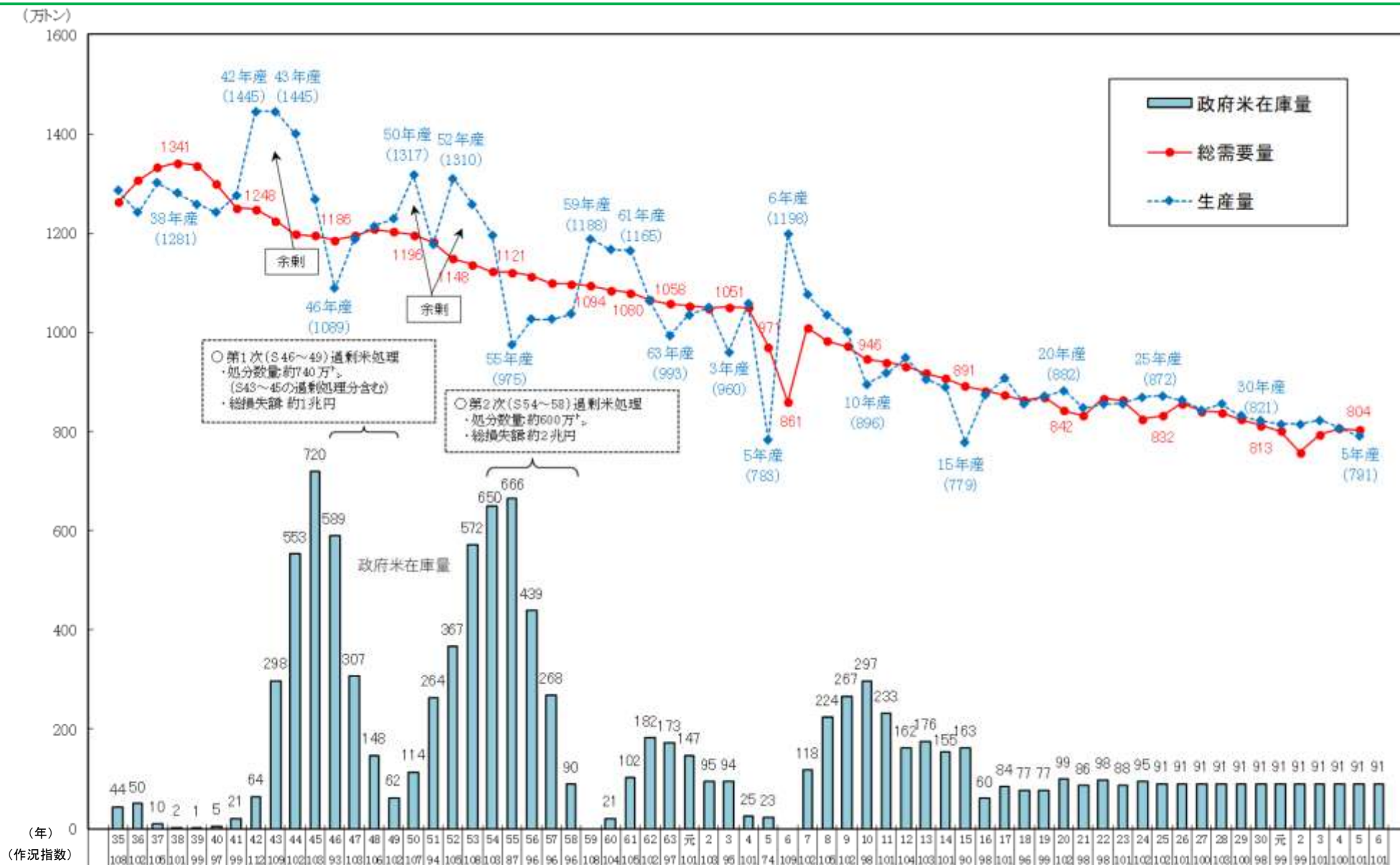


①我が国における米の状況

米の全体需給の状況（昭和35年～）



- 注1. 政府米在庫量は、外国産米を除いた数量である。
 2. 政府米在庫量は、各年10月末現在である。ただし、平成15年以降は各年6月末現在である。
 3. 平成12年10月末の政府米在庫量は、「平成12年緊急総合米対策」による援助用隔離等を除いた数量である。
 4. 総需要量は、「食料需給表」(4月～3月)における国内消費仕向量(陸稲を含み、主食用(米菓・米穀粉を含む)のほか、飼料用、加工用等の数量)である。ただし、平成5年以降は国内消費仕向量のうち国産米のみの数量である。
 5. 生産量は、「食料需給表」における国内生産量(「作物統計」の水陸稲の収穫量の合計に、飼料用米の数量を加えた数量)である。

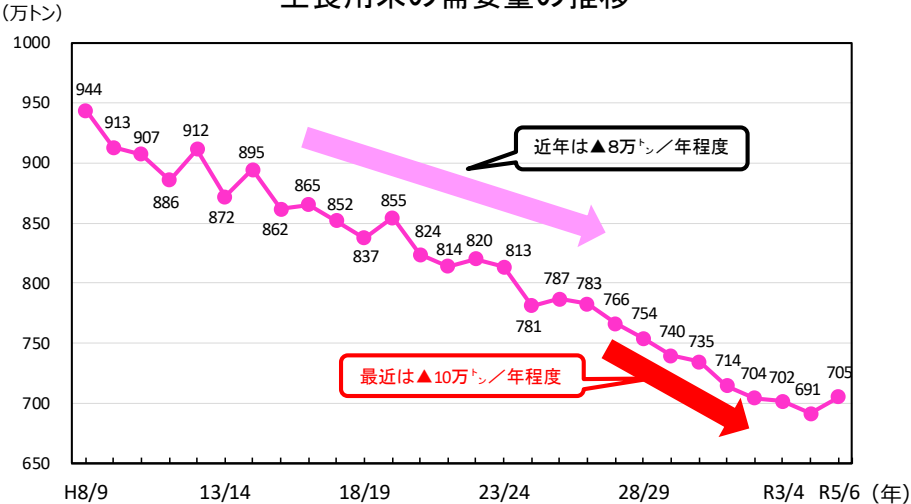
主食用米等の令和6/7年及び令和7/8年の需給見通し(令和7年3月公表基本指針)

【令和6/7年の主食用米等の需給見通し】

(単位: 万トン)

令和6年6月末民間在庫量	A	153
令和6年産主食用米等生産量	B	679
令和6/7年主食用米等供給量計	C=A+B	832
令和6/7年主食用米等需要量	D	674
令和7年6月末民間在庫量	E=C-D	158

主食用米の需要量の推移

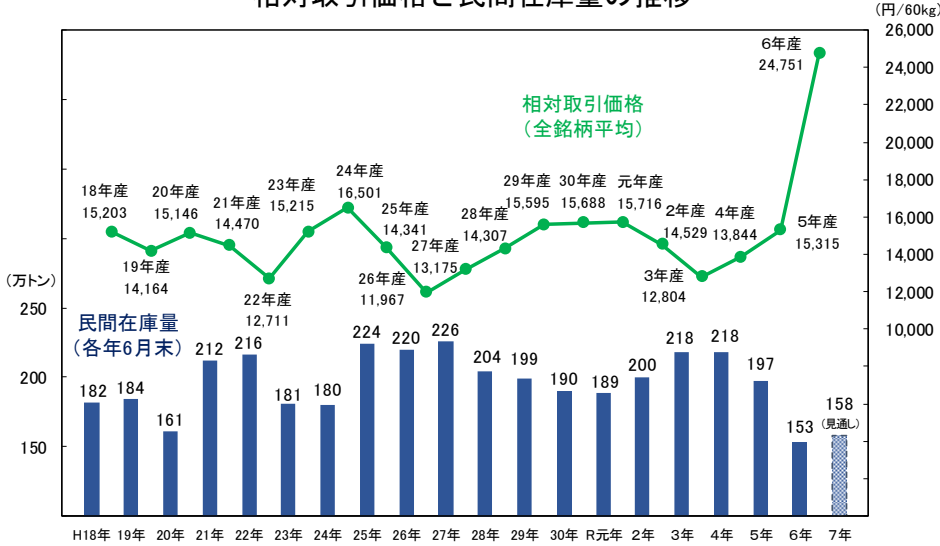


【令和7/8年の主食用米等の需給見通し】

(単位: 万トン)

令和7年6月末民間在庫量	E	158
令和7年産主食用米等生産量	F	683
令和7/8年主食用米等供給量計	G=E+F	841
令和7/8年主食用米等需要量	H	663
令和8年6月末民間在庫量	I=G-H	178

相対取引価格と民間在庫量の推移



注1: 上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、SBS方式による輸入米は含まれない。
注2: ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

注: 相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで(令和6年産は7年6月の速報値)の通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

水田の利用状況の推移

○ 主食用米の全国ベースの需要量は一貫して減少傾向にある。最近は人口減少等を背景に年10万トン程度に減少幅が拡大。

〔24年産〕 水稻作付面積:164万ha

主食用米:152万ha

加工用米:3.3万ha

※ () は飼料用米のみの面積

飼料用米等:6.8万ha(3.5万ha)

備蓄米:1.5万ha

大豆:11万ha

麦:17万ha

〔25年産〕 水稻作付面積:165万ha

主食用米:152万ha

加工用米:3.8万ha

飼料用米等:5.4万ha(2.2万ha)

備蓄米:3.3万ha

大豆:11万ha

麦:17万ha

〔26年産〕 水稻作付面積:164万ha

主食用米:147万ha

加工用米:4.9万ha

飼料用米等:7.1万ha(3.4万ha)

備蓄米:4.5万ha

大豆:11万ha

麦:17万ha

〔27年産〕 水稻作付面積:162万ha

主食用米:141万ha

加工用米:4.7万ha

飼料用米等:12.5万ha(8.0万ha)

備蓄米:4.5万ha

大豆:12万ha

麦:17万ha

〔28年産〕 水稻作付面積:161万ha

主食用米:138万ha

加工用米:5.1万ha

飼料用米等:13.9万ha(9.1万ha)

備蓄米:4.0万ha

大豆:12万ha

麦:17万ha

〔29年産〕 水稻作付面積:160万ha

主食用米:137万ha

加工用米:5.2万ha

飼料用米等:14.3万ha(9.2万ha)

備蓄米:3.5万ha

大豆:12万ha

麦:17万ha

〔30年産〕 水稻作付面積:159万ha

主食用米:139万ha

加工用米:5.1万ha

飼料用米等:13.1万ha(8.0万ha)

備蓄米:2.2万ha

大豆:12万ha

麦:17万ha

〔令和元年産〕 水稻作付面積:158万ha

主食用米:138万ha

加工用米:4.7万ha

飼料用米等:12.4万ha(7.3万ha)

備蓄米:3.3万ha

大豆:12万ha

麦:17万ha

〔2年産〕 水稻作付面積:158万ha

主食用米:137万ha

加工用米:4.5万ha

飼料用米等:12.6万ha(7.1万ha)

備蓄米:3.7万ha

大豆:11万ha

麦:18万ha

〔3年産〕 水稻作付面積:156万ha

主食用米:130万ha

加工用米:4.8万ha

飼料用米等:17.4万ha(11.6万ha)

備蓄米:3.6万ha

大豆:12万ha

麦:18万ha

〔4年産〕 水稻作付面積:155万ha

主食用米:125万ha

加工用米:5.0万ha

飼料用米等:20.6万ha(14.2万ha)

備蓄米:3.6万ha

大豆:12万ha

麦:19万ha

〔5年産〕 水稻作付面積:153万ha

主食用米:124万ha

加工用米:4.9万ha

飼料用米等:20.4万ha(13.4万ha)

備蓄米:3.5万ha

大豆:12万ha

麦:19万ha

〔6年産〕 水稻作付面積:151万ha

主食用米:126万ha

加工用米:5.0万ha

飼料用米等:17.3万ha(9.9万ha)

備蓄米:3.0万ha

大豆:12万ha

麦:19万ha

※ 水稻、麦、大豆:「耕地及び作付面積統計」、主食用米:「作物統計」、加工用米、飼料用米等(飼料用米、米粉用米、WCS用米、新市場開拓用米等):「新規需要米の取組計画認定状況」、備蓄米:地域農業再生協議会が把握した面積

米の用途別・年産別面積の推移

(単位：万ha)

用途 年産	主食用米	生産量 (万トン)	備蓄米	加工用米	新規 需要米	飼料用	WCS用稲 (稲発酵 粗飼料稲)	米粉用	新市場開拓用 (輸出用米 等)	酒造用	その他
H20	159.6	866	H22年産 までは、 主食用 米として 生産	2.7	1.2	0.1	0.9	0.0	0.0	—	0.2
H21	159.2	831		2.6	1.8	0.4	1.0	0.2	0.0	—	0.1
H22	158.0	824		3.9	3.7	1.5	1.6	0.5	0.0	—	0.1
H23	152.6	813	1.2	2.8	6.6	3.4	2.3	0.7	0.0	—	0.1
H24	152.4	821	1.5	3.3	6.8	3.5	2.6	0.6	0.0	—	0.1
H25	152.2	818	3.3	3.8	5.4	2.2	2.7	0.4	0.1	—	0.1
H26	147.4	788	4.5	4.9	7.1	3.4	3.1	0.3	0.1	0.1	0.1
H27	140.6	744	4.5	4.7	12.5	8.0	3.8	0.4	0.2	0.1	0.0
H28	138.1	750	4.0	5.1	13.9	9.1	4.1	0.3	0.1	0.1	0.0
H29	137.0	731	3.5	5.2	14.3	9.2	4.3	0.5	0.1	0.1	0.0
H30	138.6	733	2.2	5.1	13.1	8.0	4.3	0.5	0.4	—	0.0
R元	137.9	726	3.3	4.7	12.4	7.3	4.2	0.5	0.4	—	0.0
R2	136.6	723	3.7	4.5	12.6	7.1	4.3	0.6	0.6	—	0.0
R3	130.3	701	3.6	4.8	17.4	11.6	4.4	0.8	0.7	—	0.0
R4	125.1	670	3.6	5.0	20.6	14.2	4.8	0.8	0.7	—	0.0
R5	124.2	661	3.5	4.9	20.4	13.4	5.3	0.8	0.9	—	0.0
R6	125.9	679	3.0	5.0	17.3	9.9	5.6	0.6	1.1	—	0.0

注1 主食用米：統計部公表値。備蓄米：地域農業再生協議会が把握した面積。加工用米及び新規需要米：取組計画認定面積。

注2 新規需要米の「酒造用」については、「需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米であり、平成30年産以降は取りまとめていない。

注3 ラウンドの関係で、新規需要米の合計と内訳は合わない場合がある。

令和 6 年産水稻の作付面積及び収穫量

- 信頼できる精度が保たれるよう、統計理論に基づき、無作為に選定した全国8,000筆の圃場で実際に刈り取りを行い、各都道府県の10a当たり収量を決定し、その収量に各都道府県の主食用米の作付面積を掛け、全国の主食用米の収穫量を算出。
- 令和 6 年産米の主食用作付面積は125万9,000ha（同 1 万7,000ha増加）、全国の10a当たり収量（1.7mmのふるい目幅ベース）は540kg、主食用の収穫量は679万2,000 t（同18万2,000 t 増加）となった。
- 農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は101。

表 令和 6 年産水稻の作付面積及び収穫量（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	作 付 面 積 （ 子 実 用 ）			10 a 当 たり 収 量			収 穫 量 （ 子 実 用 ）			主 食 用 作 付 面 積	収 穫 量 （ 主 食 用 ）	作 況 指 数
	実 数 ①	前 年 産 と の 比 較		実 数 ②	平 年 と の 比 較	前 年 産 と の 比 較	実 数 ③＝①×②	前 年 産 と の 比 較				
		対 差	対 比		対 差	対 差						
								対 差	対 比			
	ha	ha	%	kg	kg	kg	t	t	%	ha	t	
全 国	1,359,000	15,000	101	540	3	7	7,345,000	180,000	103	1,259,000	6,792,000	101
北 海 道	95,000	1,700	102	592	21	13	562,400	22,200	104	83,700	495,500	103
東 北	358,400	9,300	103	583	12	14	2,091,000	103,000	105	319,800	1,865,000	103
北 陸	197,000	△ 700	100	535	△ 3	22	1,053,000	38,000	104	175,800	938,800	99
関 東 ・ 東 山	248,000	8,500	104	545	6	1	1,352,000	50,000	104	235,000	1,282,000	102
東 海	86,600	△ 200	100	489	△ 11	△ 5	423,100	△ 5,600	99	83,400	407,500	98
近 畿	94,000	△ 700	99	507	△ 2	4	476,900	800	100	90,600	459,600	101
中 国	93,100	△ 900	99	512	△ 7	△ 2	476,900	△ 6,200	99	90,400	463,000	101
四 国	42,700	△ 400	99	481	△ 1	△ 1	205,200	△ 2,500	99	42,300	203,600	101
九 州	143,700	△ 1,600	99	489	△ 11	△ 8	703,000	△ 19,000	97	138,200	676,000	99
沖 縄	599	23	104	326	14	5	1,950	100	105	557	1,820	105

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。

2 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 10 a 当たり収量の平年との比較は、10 a 当たり平年収量との比較である。

4 収穫量については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

5 主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

6 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

水稻収穫量調査の課題と見直しの方向について

- 水稻収穫量調査については、統計値が生産現場の実感と乖離があるとの声が多くあることから、その要因を把握すべく、生産者の方々や生産者団体、地方自治体と意見交換を実施。10 a 当たり収量や全国の米の収穫量、作況指数等の統計値及びその取り方、公表の在り方について様々な意見を頂いたところ
- このうち、作況指数は、生産現場の実感との乖離の大きな要因であることが確認され、収穫量全体を平年と比べたものとの認識が広くみられることから、統計値に対する信頼性を確保するため、令和7年産からその公表は廃止する考え
- 引き続き、生産現場の実感に合い、精度の向上が図られるよう、必要な見直しを行う考え

【水稻収穫量調査の主な内容】

無作為で選定した調査ほ場で実際に刈取りを行い収量を把握

全国及び都道府県の「10a当たり収量」の算出

- ・収量基準：農産物規格規程3等以上、ふるい目1.70mm以上の玄米
- ・1.70mm及び農家が利用するふるい目での数値を公表

全国及び都道府県の
「米の主食用収穫量」

(10a当たり収量
(1.70mmベース)
× 水稻作付面積)

全国及び都道府県の「作況指数」

$$\text{作況指数} = \frac{\text{10a当たり収量 (農家ふり目(1.70mmベース))}}{\text{10a当たり平年収量 (農家ふり目(1.70mmベース))}} \times 100$$

10 a 当たり平年収量は、直近30年間の収量の傾向値から算定。

生産現場の実感に合わせ、
精度を向上させ継続

- ・農家ふるい目ベースの収穫量を算出(1.70mmベースも引き続き公表)
- ・人工衛星や収量コンバインなどのデータの活用

公表の廃止

- ・過去30年のすう勢で算定した平年収量との比較で実感と合わない、また収穫量全体が多いか少ないかを示したものと認識が広くみられるため廃止
- ・農家ふるい目幅ベースの10a当たり収量は引き続き公表

生産現場の実感との乖離の要因の例と見直しの方向 (検証を進め、その結果を踏まえ必要な見直しを実施)

① 作況指数

- ・ 作況指数は、過去30年のすう勢で算定した平年収量と比較した数値であるが、生産現場では前年や直近の収量と比較して作柄を判断
- ・ 収穫量全体が平年と比べ多いか少ないかを示したものであるとの認識が広くみられる
⇒令和7年産から公表の廃止（今後、統計委員会での審議・総務大臣の承認が必要）

② 10 a 当たり収量及び米の収穫量

ア ふるい目

生産者は、品質向上を目指し、収穫基準のふるい目(1.70mm)より大きなふるい目(1.85mmや1.90mmなど)を利用しており、それにより選別したものが生産者の認識する収穫量
⇒収量基準となるふるい目を生産者が利用するふるい目に変更することの検討

イ 気象災害等による影響

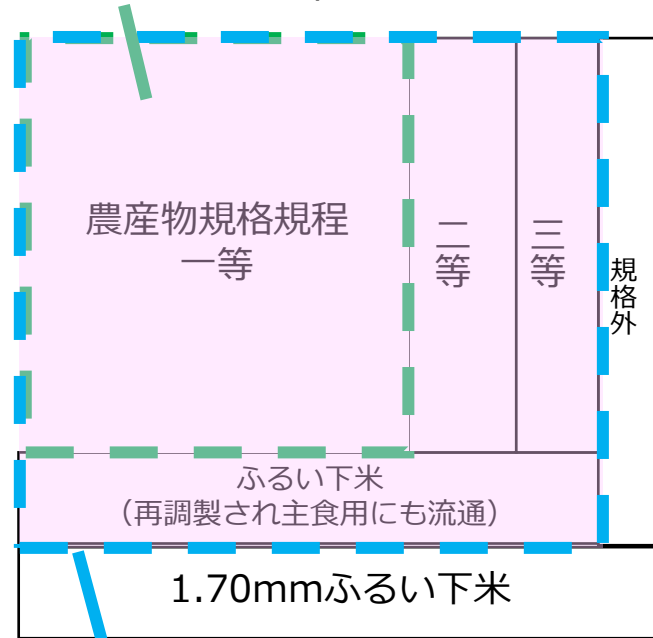
生産者は、高温障害による未熟粒の発生や、精米歩留まりの低下により、製品ベースでの収量の減少を実感
⇒情報収集の強化や、精度の向上に向けた人工衛星データや収量コンバインなどの新技術を活用した取組の検討

生産現場の実感との整合性確保（公表内容の見直し）（イメージ）

- 作況指数については、過去30年間の収量のトレンドである平年収量との対比であり、収穫量の出来不出来を直近年と比較する傾向の高い生産者・関係者の実感とのずれの大きな要因であることを踏まえ、主食用米の収穫量の出来不出来（作柄）は前年との対比で示すよう変更し、作況指数の公表を廃止。
- 収穫量調査におけるふるい目については、1.70mmから生産者の用いる1.80mm～1.90mmへの変更を検討。
- 1.70mmかつ三等以上については参考的に提供。

【現行の収穫量】

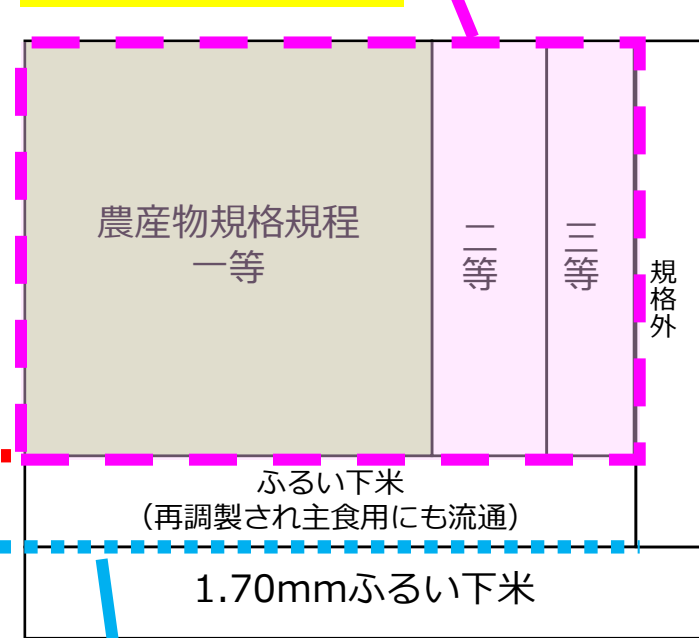
生産者が収量と認識しているのは、
生産者が使用するふるい目幅かつ一等
(特に米どころ地域)



収穫量調査では、主食用に供給される可能性のある米の総量を把握するため、ふるい目幅1.70mmかつ農産物規格規格三等以上を収量基準

【見直し後の収穫量（イメージ）】

収穫量調査においても、生産者が使用するふるい目幅に変更し、一等相当と考えられる数量等も情報提供することを検討



1.70mmかつ三等以上については参考的に提供

水稻収穫量調査へのデジタル技術の活用

- 人工衛星のデータを活用した作柄予測については、令和2年産から導入しているが、収穫量を予測するには精度が確保されていないことから、積極的に知見を収集し、今後の導入に向け検討を進める。
- 収穫と同時に収穫量等の測定が可能な収量コンバインの導入が進められていることから、標本調査に加え、試行的に収量コンバインで収集された収穫量のデータを活用することを検討。

【新技術活用のイメージ】

水稻の作柄概況把握における衛星技術の活用

- ・人工衛星で把握する地表面温度や作物の繁茂状況などのデータを活用し、7月15日現在（西南地域の早期栽培のみ）、8月15日現在の水稻の作柄（良、やや良、平年並み、やや不良）を予測。

令和6年産水稻の8月15日現在における作柄概況

区 分	作柄の良否
	良
	やや良
	平年並み
	やや不良



9月25日現在以降に公表する10 a 当たり予想収量等への活用に向け検討してきたが、現行の実測調査を置き換えられるだけの精度がある取り組みはまだ見いだせていない。一方で、近年はAIの進展により様々な分野で活用が見られ、収量予測の分野でもAIと衛星データをかけあわせて収量を予測するといった新たな動きが見られるところ。今後の精度向上に向けて知見を積極的に収集し、検討。

収量コンバインのデータ活用を検討



収穫と同時に籾の重さや水分量等が測定される収量コンバインの導入が大規模な生産者を中心に進展。測定されたデータについて、調査結果の補完などへ活用できないか、今後の精度向上に向けて検討。

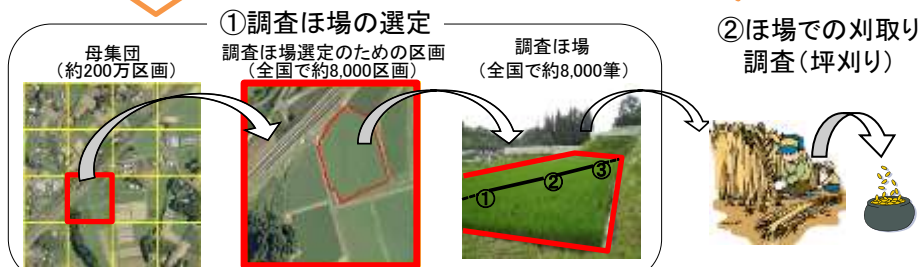
(参考) 水稻収穫量調査について

- 主食用の収穫量は、その年の10 a 当たり収量に主食用の作付面積をかけたもの。
- 算出に用いる10 a 当たり収量については、標本調査として全体の縮図となるように水稻作付ほ場から無作為に調査ほ場を選定（全国で約8,000筆）し、実際に稲を刈り取って平均値を把握。
- 主食用として供給される可能性のある玄米の総量を把握するため、収量基準を農産物規格規程三等以上かつ1.70mm以上のふるい目幅としている。

○ 水稻収穫量調査の仕組み

全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した区画から、無作為に区画を抽出し、水稻が作付けされているほ場1枚を無作為に抽出

調査ほ場において、3か所の調査箇所ごとに1㎡分（合計3㎡分）の稲を刈取り



※飼料用米など食用以外の用途のほ場は選定しない。

○ 調査ほ場の選定方法

調査ほ場は、都道府県ごとに無作為に抽出しており、耕作者、品種等を選んで選定はしていません。

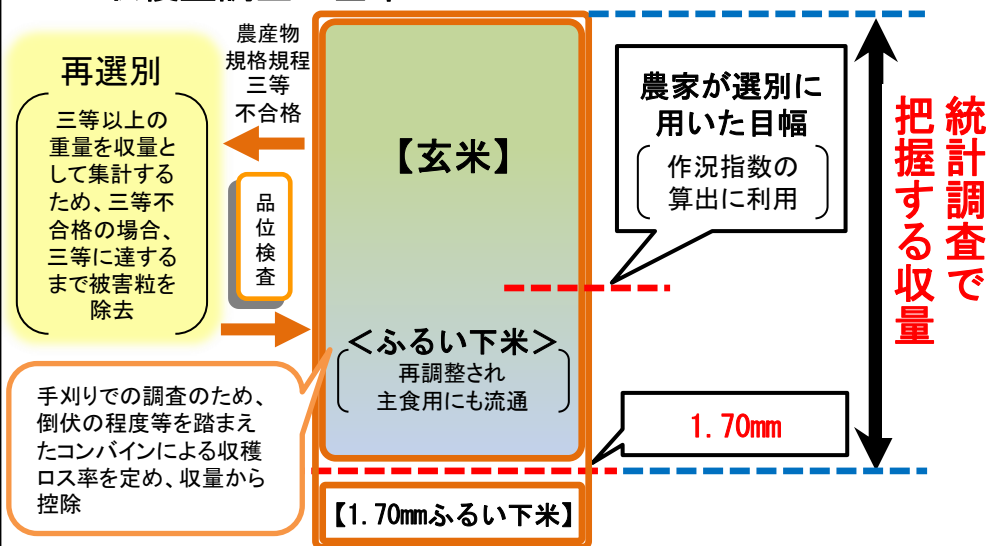
○ 調査箇所の選定方法

調査ほ場内の調査箇所（基点）については、ほ場内で3箇所を無作為に選定します。

○ 刈取調査の時期

刈取調査は、調査ほ場を耕作する生産者の収穫時期に合わせて実施

○ 収穫量調査の基準



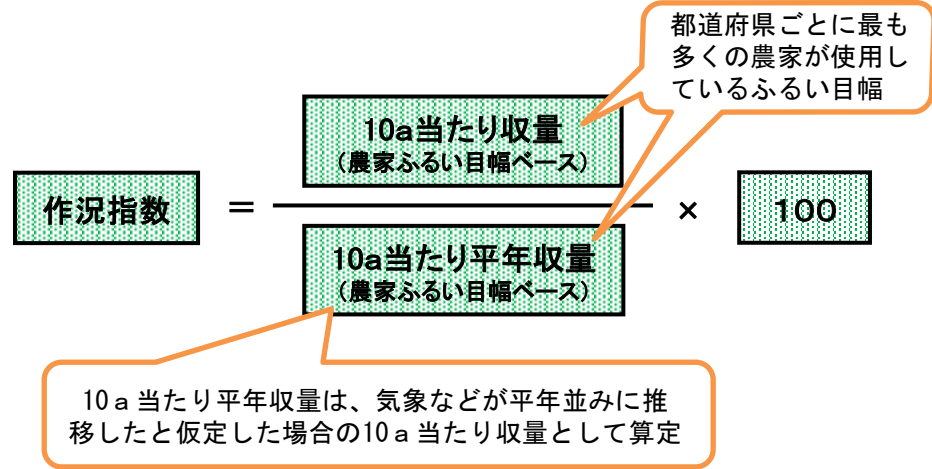
○ 収量基準の考え方

生産者段階では、ふるい下米や色彩選別機ではじかれた米について、収量として認識していない場合もあるが、本調査は主食用として供給される可能性のある玄米の全ての収穫量を把握することを目的としており、農産物規格規程三等以上かつ1.70mm以上の玄米であれば、収量に含めている。

(参考) 作況指数について

- 作況指数は、収穫量全体の多少ではなく、10 a 当たり収量の多少を平年収量と比較して示している指標。農家の実感を踏まえ、都道府県ごとに、最も多くの農家が使用しているふるい目幅で算定。
- 生産現場の実態を踏まえふるい目幅別に推定した10 a 当たり収量、収穫量も公表。

○ 作況指数の算出



○ 作況指数の算定に用いるふるい目幅(令和6～8年産用)

都道府県	ふるい目幅	都道府県	ふるい目幅	都道府県	ふるい目幅	都道府県	ふるい目幅
北海道	1.90mm	東京	1.80mm	滋賀	1.90mm	香川	1.80mm
青森	1.90mm	神奈川	1.80mm	京都	1.85mm	愛媛	1.80mm
岩手	1.90mm	新潟	1.85mm	大阪	1.80mm	高知	1.80mm
宮城	1.90mm	富山	1.90mm	兵庫	1.85mm	福岡	1.85mm
秋田	1.90mm	石川	1.90mm	奈良	1.80mm	佐賀	1.85mm
山形	1.90mm	福井	1.90mm	和歌山	1.80mm	長崎	1.80mm
福島	1.85mm	山梨	1.85mm	鳥取	1.85mm	熊本	1.85mm
茨城	1.85mm	長野	1.85mm	島根	1.90mm	大分	1.85mm
栃木	1.85mm	岐阜	1.80mm	岡山	1.85mm	宮崎	1.80mm
群馬	1.80mm	静岡	1.85mm	広島	1.85mm	鹿児島	1.80mm
埼玉	1.80mm	愛知	1.85mm	山口	1.85mm	沖縄	1.80mm
千葉	1.80mm	三重	1.85mm	徳島	1.80mm		

○ 平年収量とは

水稻を作付けする前に、その年の気象推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成されたその年の10a当たり予想収量であり、有識者の意見も聴いて決定されるもの。

○ ふるい目幅別10a当たり収量、収穫量

全国・農業地域別・都道府県別に公表

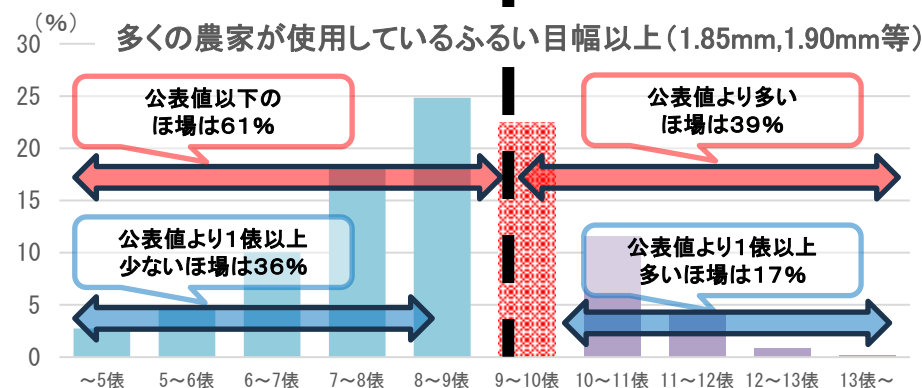
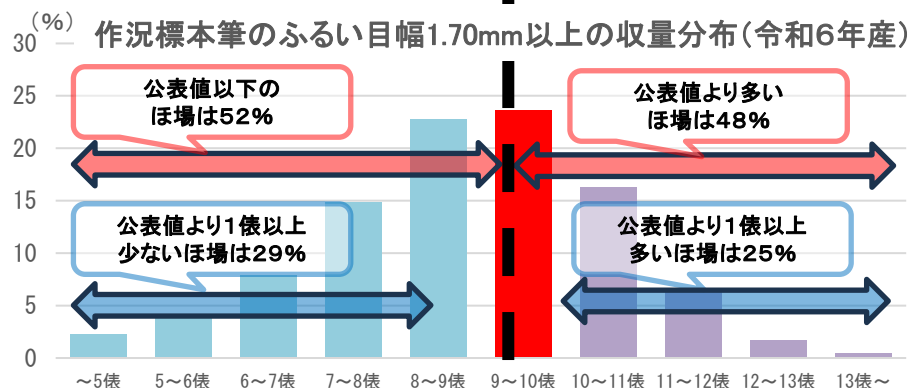
単位: kg							単位: t						
全 国	1.70mm 以上	1.75mm 以上	1.80mm 以上	1.85mm 以上	1.90mm 以上	2.00mm 以上	全 国	1.70mm 以上	1.75mm 以上	1.80mm 以上	1.85mm 以上	1.90mm 以上	2.00mm 以上
全 国	540	536	530	522	508	443	全 国	7,345,000	7,294,000	7,205,000	7,095,000	6,904,000	6,030,000
北 海 道	592	588	583	575	562	499	北 海 道	562,400	559,000	553,400	546,700	534,300	474,100
沖 縄	328	326	322	317	307	259	沖 縄	1,960	1,950	1,930	1,890	1,830	1,550

(参考) 水稻収穫量調査の結果と生産現場の実感について (令和6年産)

- **調査結果の公表値は収量の多いほ場から少ないほ場までの平均値**であり、これを**上回る生産者は低く感じるし、下回る生産者は高く感じる可能性**。また、多くの農家が使用しているふるい目（1.85mm, 1.90mm等）では一層収量の公表値を高く感じる可能性。
- **作況指数**は、**平年収量と比較して示した指標**であり、**前年産収量との差とは異なる**ほか、増収したほ場から減収したほ場までである中での平均値であり、増収した生産者は公表値を低く感じるし、減収した生産者は高く感じる可能性。
- このほか、公表値は地域や品種により収量に差がある中での平均値であり、これを下回る地域や品種の生産者は公表値を高く感じる可能性。また、生産者によっては品位を高めるため色彩選別機による選別をし、**選別ではじかれたものをふるい下米と一緒に取り扱う場合**があり、それも違和感につながっている可能性。

平均値(公表値)とふるい目による実感の違い

全国公表値 540kg (1.70mm以上) = 9.0俵



平年収量と前年産の収量との差による実感の違い

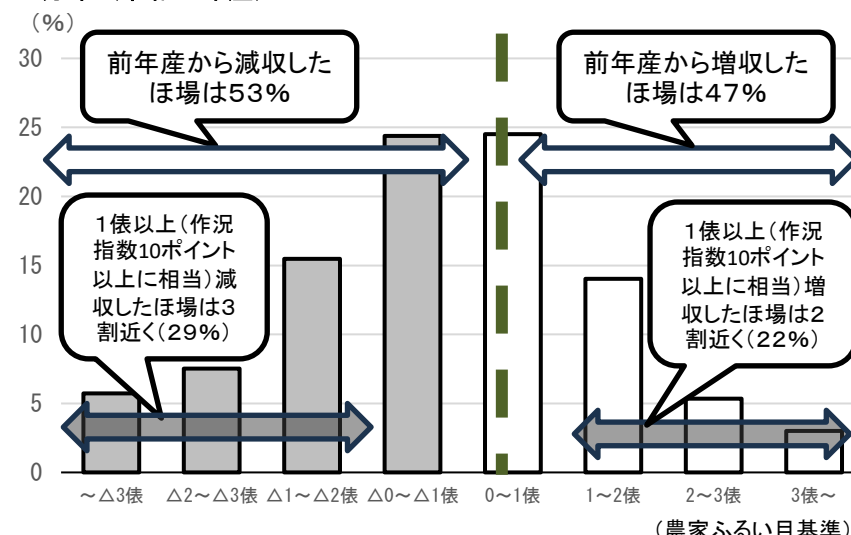
全国公表値 作況指数 101 (農家ふるい目基準)

令和6年産の作況指数は101で、10a当たり収量は平年に比べ+6kg。10a当たり収量は前年産と比べて減収したほ場から増収したほ場までである中での平均値であり、前年産と比べて減収した生産者は、100を上回る作況指数を高く感じる可能性

作況指数は、平年収量と比較して示した指標。収量が前年産を下回っても、平年を上回れば100を上回る

平年収量との差 +6kg

前年産に続き本年産も調査を実施したほ場における前年産との収量の差の分布(令和6年産)



水田における作付意向について（令和7年産第3回中間的取組状況（6月末時点）） ①

- 農林水産省では、産地・生産者が主体的に作付けを判断し、需要に応じた生産・販売を行うことができるよう、都道府県別の作付意向を聞き取り、公表。過去5年間の各作物の作付推移は、次のとおり。

【主食用米、備蓄米及び戦略作物の作付状況】

（万ha）

	主食用米	備蓄米	戦略作物						
			加工用米	新規需要米				麦	大豆
				新市場 開拓用米 （輸出用米等）	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 〔稲発酵 粗飼料用稲〕		
H30年産	138.6	2.2	5.1	0.4	0.5	8.0	4.3	9.7	8.8
R元年産	137.9	3.3	4.7	0.4	0.5	7.3	4.2	9.7	8.6
R2年産	136.6	3.7	4.5	0.6	0.6	7.1	4.3	9.8	8.5
R3年産	130.3	3.6	4.8	0.7	0.8	11.6	4.4	10.2	8.5
R4年産	125.1	3.6	5.0	0.7	0.8	14.2	4.8	10.6	8.9
R5年産	124.2	3.5	4.9	0.9	0.8	13.4	5.3	10.5	8.8
R6年産	125.9	3.0	5.0	1.1	0.6	9.9	5.6	10.3	8.4
R7年産 （6月末時点）	136.3	—	4.4	0.9	0.4	4.9	5.0	9.6	7.6
対前年差	10.4	▲ 3.0	▲ 0.6	▲ 0.2	▲ 0.3	▲ 4.9	▲ 0.7	▲ 0.7	▲ 0.9

注1：主食用米及び戦略作物の7年産意向は、地方農政局等が6月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦・大豆は基幹作の面積）。

注2：主食用米の6年産以前の実績は、統計部公表の主食用米作付面積。

注3：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の6年産以前の実績は、取組計画認定面積。

注4：麦・大豆の6年産以前の実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

注5：備蓄米は、7年産米の入札を当面中止。6年産以前の実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

注6：単位未満で四捨五入しているため、対前年差について、表記上の数値による計算結果と一致しない場合がある。

水田における作付意向について（令和7年産第3回中間的取組状況（6月末時点））②

（千ha）

都道府県	主食用米			戦略作物													
	6年産実績	7年産意向	対前年実績	加工用米		新規需要米								麦		大豆	
						新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)					
				6年産実績	7年産意向	6年産実績	7年産意向	6年産実績	7年産意向	6年産実績	7年産意向	6年産実績	7年産意向	6年産実績	7年産意向	6年産実績	7年産意向
全国計	125.9万	136.3万		50.2	43.7	11.2	9.4	6.3	3.7	98.7	49.2	56.5	49.8	103.1	95.8	84.4	75.8
北海道	83.7	90.3	↗	6.8	8.0	2.5	2.2	0.2	0.1	5.3	2.3	2.5	3.1	31.8	29.8	16.5	14.8
青森	37.2	43.7	↗	0.7	0.3	0.5	0.3	0.0	0.0	5.4	4.3	0.9	0.8	0.5	0.5	4.8	4.3
岩手	43.1	46.8	↗	1.3	0.8	0.4	0.4	0.0	0.0	4.8	3.0	2.5	2.1	3.5	3.3	4.1	3.7
宮城	58.4	64.9	↗	0.9	1.4	1.2	1.1	0.1	0.1	7.2	3.6	3.0	2.4	2.2	2.3	9.4	8.6
秋田	72.2	81.1	↗	8.4	5.7	0.5	0.5	0.3	0.2	2.5	0.9	1.4	1.0	0.1	0.1	8.5	7.5
山形	52.4	57.0	↗	4.3	4.7	0.5	0.5	0.1	0.0	4.7	3.4	1.4	1.3	0.1	0.1	4.5	4.1
福島	56.5	67.3	↗	0.4	1.0	0.2	0.1	0.0	0.0	7.0	1.6	1.1	0.9	0.4	0.4	0.9	0.8
茨城	59.9	66.4	↗	1.3	1.1	1.1	0.9	0.1	0.1	10.3	4.4	0.6	0.6	3.9	3.5	0.7	0.6
栃木	49.0	57.9	↗	1.9	1.7	0.1	0.0	0.9	0.2	11.6	5.1	2.3	1.9	7.5	6.9	0.4	0.3
群馬	12.8	14.6	↗	1.4	0.2	0.0	0.0	0.2	0.1	1.0	0.3	0.6	0.6	2.2	1.3	0.1	0.1
埼玉	28.4	30.2	↗	0.1	0.1	0.1	0.0	0.9	0.4	2.1	0.9	0.1	0.1	2.2	2.2	0.4	0.3
千葉	48.3	53.9	↗	2.1	1.5	0.0	0.1	0.1	0.0	6.6	2.1	1.3	0.9	0.5	0.4	0.2	0.2
東京	0.1	0.1	→	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2.8	2.8	→	-	-	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
新潟	101.4	108.7	↗	6.8	6.6	1.8	1.5	1.4	0.7	2.9	1.4	0.7	0.6	0.2	0.2	3.9	3.4
富山	31.2	33.5	↗	1.1	1.3	0.4	0.4	0.3	0.3	1.9	1.5	0.5	0.5	3.3	2.9	3.7	3.6
石川	21.2	21.9	↗	0.5	0.5	0.1	0.0	0.2	0.2	0.5	0.2	0.1	0.1	1.2	1.1	1.0	0.8
福井	21.9	23.5	↗	0.5	0.5	0.3	0.2	0.1	0.1	1.5	0.9	0.2	0.1	5.2	5.0	0.1	0.1
山梨	4.6	4.6	→	0.1	0.1	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1
長野	29.0	30.0	↗	0.8	0.4	0.3	0.2	0.0	0.0	0.3	0.2	0.3	0.3	2.5	2.3	0.6	0.6
岐阜	19.6	20.6	↗	1.1	0.9	0.1	0.1	0.1	0.1	2.8	1.9	0.3	0.3	3.7	3.6	0.3	0.2
静岡	14.4	14.9	↗	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.0	0.0
愛知	25.0	25.6	↗	0.6	0.5	0.0	0.0	0.3	0.3	1.3	1.0	0.2	0.1	5.7	5.6	0.1	0.1
三重	24.5	25.3	↗	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	2.0	1.3	0.3	0.3	7.1	6.8	0.2	0.1

注1：主食用米の6年産実績は、令和7年2月統計部公表の主食用米作付面積。

2：主食用米及び戦略作物の7年産意向は、地方農政局等が6月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦・大豆は基幹作の面積）。

3：主食用米の対前年実績は、6年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。

4：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の6年産実績は、取組計画の認定面積。

5：麦・大豆の6年産実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

6：戦略作物の7年産意向の数値は、6年産実績と比較し、「赤：増加傾向」（1%超増加）、「黒：前年並み」（増減1%以内）、「緑：減少傾向」（1%超減少）で分類。

水田における作付意向について（令和7年産第3回中間的取組状況（6月末時点）） ③

都道府県	主食用米			戦略作物												麦		大豆	
				新規需要米															
	加工用米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)										
			6年産 実績	7年産 意向	6年産 実績	7年産 意向	6年産 実績	7年産 意向	6年産 実績	7年産 意向	6年産 実績	7年産 意向							
滋賀	27.4	28.5	↗	0.5	0.3	0.2	0.2	0.0	0.0	1.5	1.0	0.3	0.3	8.5	8.2	0.5	0.5		
京都	13.0	13.2	↗	0.5	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.2	0.3	0.2	0.3	0.2		
大阪	4.3	4.2	↘	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
兵庫	32.2	33.2	↗	0.7	0.6	0.2	0.2	0.0	0.0	0.7	0.4	1.0	0.9	2.0	1.9	1.6	1.4		
奈良	8.0	7.9	→	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0		
和歌山	5.7	5.6	↘	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
鳥取	11.6	12.0	↗	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.5	0.4	0.4	0.1	0.1	0.6	0.5		
島根	15.7	16.1	↗	0.2	0.1	0.0	-	0.0	0.0	0.7	0.5	0.8	0.7	0.3	0.2	0.6	0.5		
岡山	27.2	28.1	↗	0.3	0.1	0.2	0.2	0.1	0.0	1.1	0.3	0.5	0.5	1.2	0.9	1.0	0.7		
広島	20.1	20.1	→	0.4	0.2	0.1	0.0	0.1	0.1	0.4	0.1	0.7	0.7	0.3	0.2	0.2	0.2		
山口	15.8	16.2	↗	1.0	0.8	0.1	0.1	0.0	0.0	1.0	0.6	0.4	0.4	0.8	0.8	0.7	0.6		
徳島	9.8	10.3	↗	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.2	0.3	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0		
香川	9.8	9.9	↗	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.3	0.3	1.2	1.2	0.0	0.0		
愛媛	12.7	12.8	→	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.3	0.2	0.3	0.2	0.4	0.4	0.3	0.3		
高知	10.1	10.4	↗	0.1	0.1	-	-	0.0	0.0	1.0	0.5	0.3	0.3	0.0	0.0	0.1	0.0		
福岡	32.2	34.3	↗	0.2	0.2	0.0	0.0	0.2	0.2	2.2	1.1	2.3	2.0	1.2	1.1	7.7	6.8		
佐賀	22.0	23.7	↗	0.4	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.5	2.3	1.8	1.1	0.2	6.5	6.3		
長崎	9.4	9.4	→	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	1.6	1.5	0.1	0.1	0.3	0.2		
熊本	28.8	31.7	↗	0.7	0.3	0.0	0.0	0.2	0.1	1.4	0.6	9.4	8.3	0.8	0.7	2.1	1.8		
大分	17.8	18.8	↗	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	1.8	1.1	2.8	2.4	0.7	0.6	1.1	0.8		
宮崎	12.4	13.4	↗	2.1	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.8	7.4	6.8	0.0	0.0	0.2	0.2		
鹿児島	15.6	17.4	↗	1.4	0.9	0.0	-	0.0	0.0	0.7	0.4	4.2	3.5	0.1	0.1	0.3	0.2		
沖縄	0.6	0.6	↗	0.0	0.1	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-		

- 注1：主食用米の6年産実績は、令和7年2月統計部公表の主食用米作付面積。
 2：主食用米及び戦略作物の7年産意向は、地方農政局等が6月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦・大豆は基幹作の面積）。
 3：主食用米の対前年実績は、6年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。
 4：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の6年産実績は、取組計画の認定面積。
 5：麦・大豆の6年産実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
 6：戦略作物の7年産意向の数値は、6年産実績と比較し、「赤：増加傾向」（1%超増加）、「黒：前年並み」（増減1%以内）、「緑：減少傾向」（1%超減少）で分類。

米の販売数量及び民間在庫の推移（令和7年6月）

- 令和6年7月以降の米穀販売事業者における販売数量は、7～8月は概ね前年を上回って推移していたものの、9月以降は前年を下回る数量となっており、令和6年7月～7年6月の累計数量は、対前年比95%（うち中食・外食事業者等向けは対前年比98%、小売事業者向けは対前年比92%）
- 令和7年6月末現在の全国の民間在庫は、出荷・販売段階の計で対前年差+6万トンの121万トンとなっており、出荷段階は対前年差±0万トンの84万トン、販売段階は対前年差+6万トンの37万トンとなっている。

【米穀販売事業者における販売数量の動向（前年同月比）（速報）】

	5年7月 ～6年6月計	6年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	6年7月 ～7年6月計
小売事業者向け	106%	104%	100%	86%	85%	93%	92%	94%	89%	86%	92%	93%	88%	92%
中食・外食事業者等向け	103%	99%	100%	97%	100%	100%	101%	101%	95%	98%	97%	90%	98%	98%
販売数量計	105%	102%	100%	91%	92%	96%	96%	97%	92%	91%	94%	92%	92%	95%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000トン以上の販売事業者（年間取扱数量約160万トン（令和6年産主食用米等の生産量679万トンの約2割））である。
2：上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。
3：令和7年3月以降には、売り渡した政府備蓄米を含む。

【購入数量の推移（家計調査）】

		5年7月 ～6年6月計	6年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年 1月	2月	3月	4月	5月	6年7月 ～7年5月計
米	購入数量	57.24	4.37	5.73	6.35	7.65	5.11	5.21	3.76	3.86	4.38	4.50	4.59	55.51
	前年同月比	101.1%	99.5%	129.1%	104.8%	113.3%	113.8%	98.5%	106.8%	98.5%	97.6%	102.7%	94.3%	105.5%
中心	購入数量	42,908	3,460	3,547	3,340	3,381	3,471	3,572	3,350	3,178	3,752	3,722	3,659	38,432
	前年同月比	99.6%	102.3%	103.8%	94.9%	95.3%	100.8%	97.9%	95.7%	89.6%	96.4%	97.6%	99.3%	97.6%
めん類	購入数量	33,180	2,965	3,136	2,557	2,585	2,658	3,231	2,688	2,574	2,994	2,824	3,061	31,273
	前年同月比	96.5%	93.4%	104.6%	107.0%	97.7%	100.2%	100.1%	96.9%	100.7%	110.0%	112.3%	114.3%	103.1%

資料：総務省「家計調査」家計収支編 二人以上の世帯

【民間在庫量の推移（出荷＋販売段階）（速報）】

		当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
5 / 6 年	出荷+販売段階	123	104	199	289	303	298	274	244	214	180	145	115
	出荷段階	95	78	161	235	249	246	228	202	171	139	112	84
	販売段階	27	26	38	54	54	52	46	42	43	41	34	31
6 / 7 年	出荷+販売段階	82	65	149	244	259	253	229	205	180	168	148	121
	対前年差	▲40	▲39	▲51	▲45	▲44	▲45	▲45	▲39	▲35	▲12	+3	+6
	出荷段階	58	44	113	187	200	196	179	159	135	125	109	84
	対前年差	▲38	▲34	▲49	▲49	▲49	▲49	▲49	▲43	▲36	▲14	▲3	±0
	販売段階	25	21	36	58	59	56	50	46	45	43	40	37
	対前年差	▲3	▲5	▲2	+4	+5	+4	+4	+4	+2	+2	+6	+6

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
2：報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
3：期間については、6/7年であれば、令和6年7月～7年6月である。
4：令和7年3月以降には、売り渡した政府備蓄米の数量（令和7年6月末時点で11.8万トン）を含む。

産地別民間在庫の状況（令和7年6月）

（単位：千玄米トン）

	6年 5月 ① (千玄米トン)	6年 6月 ② (千玄米トン)	7年 5月 ③ (千玄米トン)	対前年 同月差 ④=③-① (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑤=④/① (%)	7年 6月 ⑥ (千玄米トン)	対前年 同月差 ⑦=⑥-② (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑧=⑦/② (%)
北海道	144.2	113.2	160.5	+ 16.3	+ 11.3%	133.7	+ 20.5	+ 18.1%
青森	66.8	52.6	101.4	+ 34.6	+ 51.8%	80.6	+ 28.0	+ 53.2%
岩手	75.6	63.4	58.1	▲ 17.6	▲ 23.2%	49.2	▲ 14.3	▲ 22.5%
宮城	93.1	76.4	98.3	+ 5.2	+ 5.6%	83.1	+ 6.7	+ 8.8%
秋田	96.4	72.2	123.5	+ 27.2	+ 28.2%	98.5	+ 26.3	+ 36.4%
山形	94.9	76.6	120.0	+ 25.1	+ 26.5%	98.3	+ 21.7	+ 28.4%
福島	93.7	79.2	120.0	+ 26.3	+ 28.0%	95.0	+ 15.8	+ 20.0%
茨城	54.2	41.3	37.3	▲ 16.9	▲ 31.1%	30.5	▲ 10.9	▲ 26.3%
栃木	88.4	72.6	67.4	▲ 21.0	▲ 23.7%	55.6	▲ 17.0	▲ 23.4%
群馬	12.0	8.8	10.0	▲ 2.0	▲ 16.6%	8.8	+ 0.0	▲ 0.2%
埼玉	13.9	10.4	7.5	▲ 6.4	▲ 46.2%	6.3	▲ 4.1	▲ 39.3%
千葉	23.9	14.7	21.3	▲ 2.6	▲ 11.0%	16.1	+ 1.4	+ 9.3%
東京	0.0	0.0	0.0	+ 0.0	-	0.0	+ 0.0	-
神奈川	1.2	0.8	0.4	▲ 0.7	▲ 63.1%	0.4	▲ 0.4	▲ 52.4%
山梨	2.6	2.2	1.7	▲ 0.8	▲ 32.1%	1.5	▲ 0.7	▲ 30.3%
長野	38.2	33.1	29.3	▲ 8.9	▲ 23.3%	26.0	▲ 7.1	▲ 21.3%
静岡	6.4	4.7	7.0	+ 0.5	+ 8.0%	5.6	+ 0.9	+ 19.2%
新潟	123.2	96.3	135.8	+ 12.6	+ 10.3%	104.8	+ 8.5	+ 8.8%
富山	44.6	32.3	47.7	+ 3.1	+ 6.9%	36.8	+ 4.6	+ 14.2%
石川	32.1	26.1	29.4	▲ 2.6	▲ 8.1%	23.3	▲ 2.8	▲ 10.8%
福井	19.9	15.5	27.6	+ 7.8	+ 39.1%	22.2	+ 6.8	+ 43.7%
岐阜	15.7	11.6	11.1	▲ 4.7	▲ 29.7%	9.5	▲ 2.1	▲ 18.1%
愛知	15.0	11.7	12.9	▲ 2.1	▲ 13.9%	10.4	▲ 1.4	▲ 11.8%
三重	13.1	8.7	10.7	▲ 2.4	▲ 18.2%	8.7	▲ 0.1	▲ 0.8%

	6年 5月 ① (千玄米トン)	6年 6月 ② (千玄米トン)	7年 5月 ③ (千玄米トン)	対前年 同月差 ④=③-① (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑤=④/① (%)	7年 6月 ⑥ (千玄米トン)	対前年 同月差 ⑦=⑥-② (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑧=⑦/② (%)
滋賀	21.9	16.2	18.3	▲ 3.6	▲ 16.4%	14.2	▲ 2.0	▲ 12.3%
京都	3.3	2.6	4.0	+ 0.7	+ 20.4%	3.4	+ 0.7	+ 27.0%
大阪	0.7	0.5	0.3	▲ 0.4	▲ 60.8%	0.2	▲ 0.3	▲ 66.8%
兵庫	23.5	20.1	15.9	▲ 7.7	▲ 32.6%	13.6	▲ 6.6	▲ 32.5%
奈良	5.1	3.9	2.5	▲ 2.7	▲ 51.9%	2.0	▲ 1.9	▲ 48.7%
和歌山	1.0	0.8	0.4	▲ 0.5	▲ 55.9%	0.5	▲ 0.3	▲ 34.9%
鳥取	12.3	10.5	14.7	+ 2.4	+ 19.4%	12.8	+ 2.3	+ 21.9%
島根	12.3	9.0	10.4	▲ 1.9	▲ 15.8%	8.7	▲ 0.3	▲ 3.6%
岡山	22.2	18.4	24.2	+ 2.1	+ 9.3%	22.5	+ 4.1	+ 22.3%
広島	15.9	11.6	12.1	▲ 3.7	▲ 23.4%	10.0	▲ 1.6	▲ 13.8%
山口	15.5	12.3	12.4	▲ 3.1	▲ 20.0%	10.8	▲ 1.5	▲ 12.0%
徳島	2.0	1.4	2.5	+ 0.5	+ 23.4%	2.0	+ 0.6	+ 44.2%
香川	6.5	4.7	5.8	▲ 0.6	▲ 10.0%	4.6	▲ 0.1	▲ 1.7%
愛媛	7.7	5.8	2.9	▲ 4.9	▲ 63.1%	2.4	▲ 3.4	▲ 59.4%
高知	3.7	2.9	2.1	▲ 1.6	▲ 42.8%	1.7	▲ 1.2	▲ 40.6%
福岡	30.7	23.9	19.8	▲ 10.9	▲ 35.6%	15.9	▲ 8.0	▲ 33.4%
佐賀	17.8	13.2	12.5	▲ 5.3	▲ 29.6%	10.8	▲ 2.4	▲ 18.3%
長崎	4.6	3.4	3.6	▲ 1.0	▲ 21.1%	3.1	▲ 0.3	▲ 9.3%
熊本	22.4	16.5	17.0	▲ 5.3	▲ 23.9%	13.1	▲ 3.4	▲ 20.7%
大分	8.0	6.0	6.1	▲ 1.9	▲ 23.7%	4.9	▲ 1.1	▲ 17.8%
宮崎	2.7	1.7	2.3	▲ 0.4	▲ 15.7%	1.8	+ 0.0	+ 1.5%
鹿児島	8.5	6.4	7.7	▲ 0.8	▲ 9.1%	6.7	+ 0.3	+ 5.2%
沖縄	0.0	0.4	0.0	+ 0.0	▲ 95.2%	0.2	▲ 0.2	▲ 57.9%
全国	145万ト	115万ト	148万ト	+3万ト	+ 2.1%	121万ト	+6万ト	+ 5.5%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

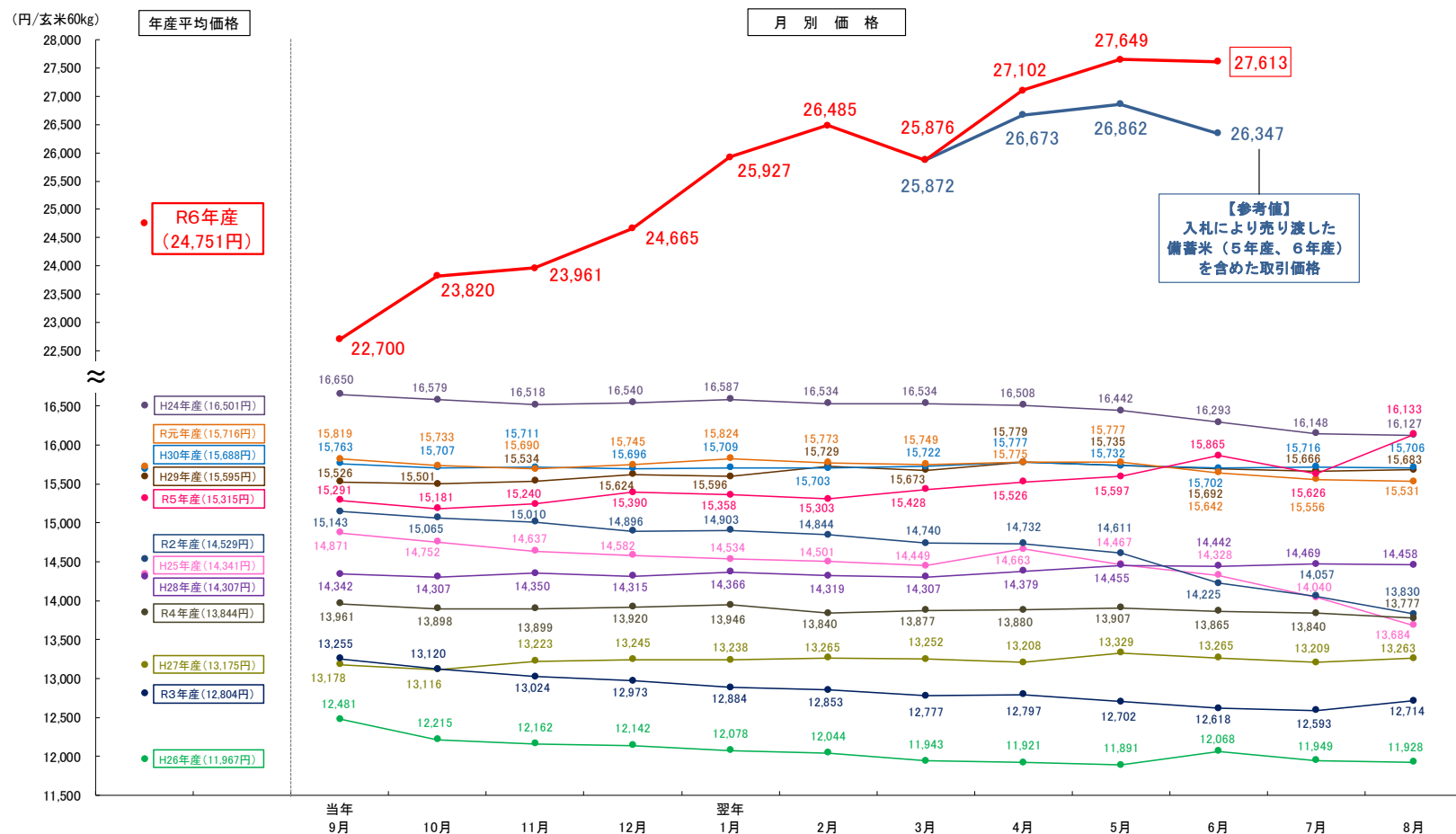
注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

2 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

3 令和7年5月及び6月には、売り渡した政府備蓄米の数量（7年5月：19.7万トン、7年6月：11.8万トン）を含む。

相対取引価格の推移（平成24年産～令和6年産）

- 令和6年産米の令和7年6月の相対取引価格は、備蓄米の取引を含む全銘柄平均で27,613円/60kgとなり、対前年同月+11,748円（+74%）、対前月▲36円（▲0%）。取扱数量は、3.5万トンとなったところ。
- 令和6年産米は、例年より早いペースで取引（契約）が進み、令和7年6月で取引（契約）は終盤となっていることから、6月の取引価格が令和6年産米の取引全体に与える影響は小さい。
- なお、令和7年3月以降の米の取引価格の参考として、令和5年産の備蓄米も含めると、26,347円/60kg。
- 令和7年6月までの年産平均価格24,751円/60kgは、出荷業者と卸売業者等の間の取引価格としては、比較可能な平成2年以降で過去最高の価格である。



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

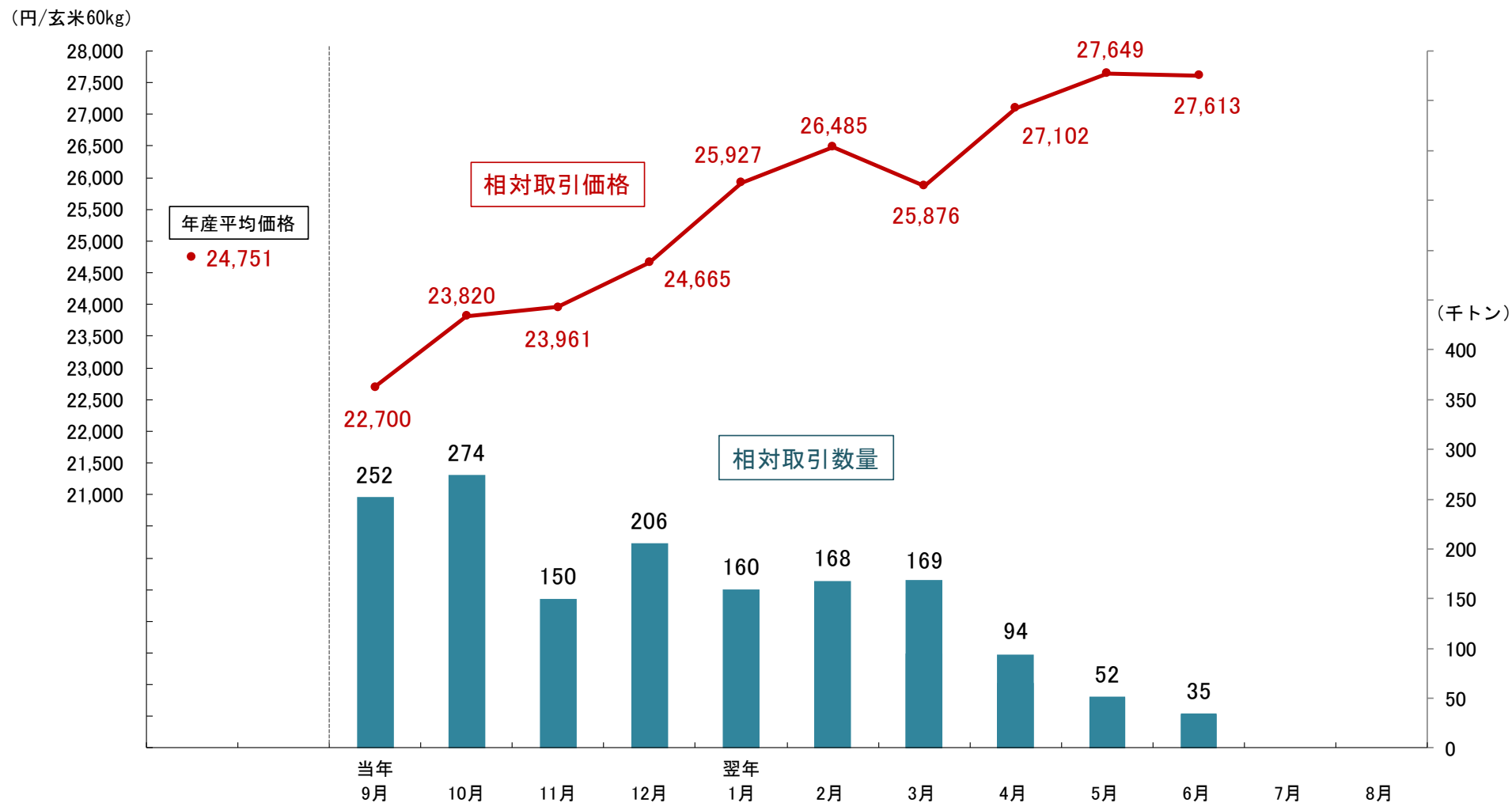
注1：運賃、包装代、消費税相当額（平成26年3月までは5%、元年9月までは8%、元年10月以降は10%、ただし軽減税率対象は8%）を含む1等米の価格である。

2：グラフ左側の年産平均価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（6年産は出回りから令和7年6月までの速報値）の通年平均価格、右側は月ごとの価格の推移。

3：令和5年産の備蓄米は、政府備蓄米の買戻し条件付売渡しの販売数量等の報告から集計。

令和6年産米の相対取引価格

○ 令和7年6月の取引数量は3.5万トンと、これまでの令和6年産米の取引数量全体の約2%であるため、6月の取引価格が令和6年産米の取引全体に与える影響は小さい。



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

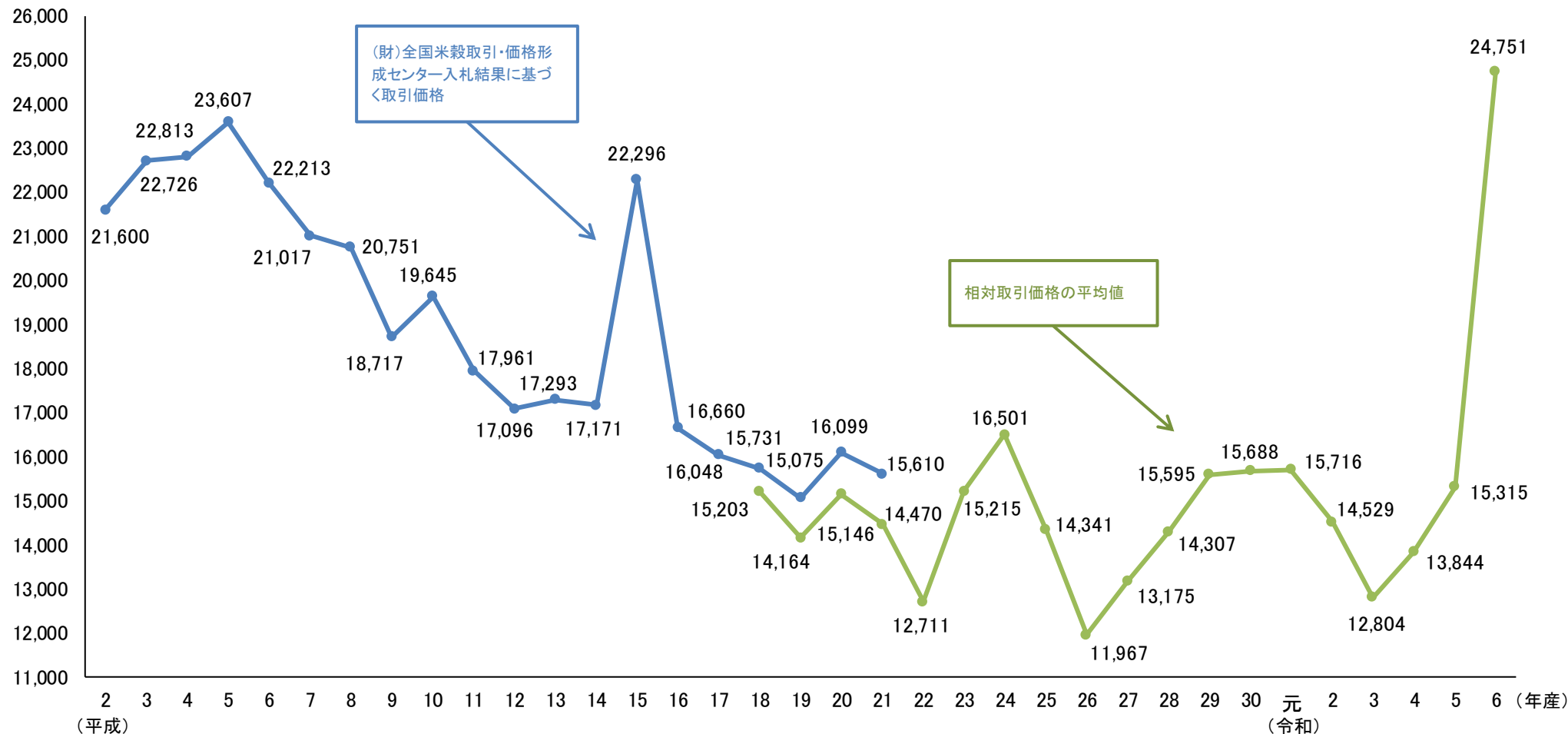
注1：運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。

注2：グラフ左側の年産平均価格は、出回りに対する翌年6月までの通年平均価格（速報値）、右側は月ごとの価格の推移。

注3：令和7年3月から6月までには、令和6年産の備蓄米の取引を含む。

長期的な主食用米の価格の動向

(単位: 円/60kg)



資料：（財）全国米穀取引・価格形成センター入札結果、農林水産省「相対取引価格」

注1：価格には、包装代、運賃、消費税相当額等を含む。

注2：年産別平均価格（令和6年産は、出回りから令和7年6月までの速報値）。

※・コメ価格センター取引は、自主流通米の指標価格の形成を図るために実施されていたが、平成16年の食糧法改正により計画流通制度が廃止され、義務上場がなくなったこと等を背景に取引が低調となり、平成21年産をもって取引を中止。

・コメ価格センター取引が低調となったことを受けて、コメ価格センター取引価格の指標性を確認する観点から、相対取引価格について、農林水産省が18年産米から年間取扱数量5,000トン以上の全国出荷団体等と卸売業者の取引価格を調査、公表。その後も米の価格動向を把握するため引き続き実施。

令和6年産米の相対取引価格（令和7年6月の年産平均価格）

（単位：円／玄米60kg（税込））

産地品種銘柄		令和6年産 〔出回り～ 7年6月〕	令和5年産 〔出回り～ 6年10月〕	価格差 ①－②
①	②	③	④	⑤
北海道	ななつぼし	26,943	15,655	+ 11,288
北海道	ゆめぴりか	28,034	16,452	+ 11,582
北海道	きらら397	26,519	15,102	+ 11,417
青森	まっしぐら	26,048	15,220	+ 10,828
青森	つがるロマン	-	15,421	-
岩手	ひとめぼれ	23,504	15,140	+ 8,364
岩手	銀河のしずく	23,575	15,459	+ 8,116
岩手	あきたこまち	24,939	15,119	+ 9,820
宮城	ひとめぼれ	23,711	15,007	+ 8,704
宮城	つや姫	25,025	15,556	+ 9,469
宮城	ササニシキ	24,102	15,592	+ 8,510
秋田	あきたこまち	25,088	15,317	+ 9,771
秋田	ひとめぼれ	23,003	14,375	+ 8,628
秋田	めんこいな	23,505	14,213	+ 9,292
山形	はえぬき	25,659	14,779	+ 10,880
山形	つや姫	27,887	18,745	+ 9,142
山形	雪若丸	26,471	15,497	+ 10,974
福島	コシヒカリ（中通り）	26,287	14,959	+ 11,328
福島	コシヒカリ（会津）	26,200	15,494	+ 10,706
福島	コシヒカリ（浜通り）	25,946	15,131	+ 10,815
福島	ひとめぼれ	25,494	14,537	+ 10,957
福島	天のつば	24,902	14,296	+ 10,606
茨城	コシヒカリ	27,726	15,235	+ 12,491
茨城	あきたこまち	26,035	14,726	+ 11,309
茨城	にじのきらめき	26,682	-	-
栃木	コシヒカリ	25,070	15,152	+ 9,918
栃木	とちぎの星	24,881	14,476	+ 10,405
栃木	あさひの夢	24,318	14,145	+ 10,173
群馬	あさひの夢	27,109	15,219	+ 11,890
群馬	ゆめまつり	-	14,976	-
埼玉	彩のきずな	22,528	14,489	+ 8,039
埼玉	彩のかがやき	25,627	14,333	+ 11,294
埼玉	コシヒカリ	24,240	15,055	+ 9,185
千葉	コシヒカリ	24,101	14,611	+ 9,490
千葉	ふさこがね	23,441	13,742	+ 9,699
千葉	ふさおとめ	23,370	13,985	+ 9,385
山梨	コシヒカリ	19,743	17,535	+ 2,208
長野	コシヒカリ	23,040	15,895	+ 7,145
長野	あきたこまち	22,225	15,127	+ 7,098
静岡	コシヒカリ	23,003	15,560	+ 7,443

産地品種銘柄		令和6年産 〔出回り～ 7年6月〕	令和5年産 〔出回り～ 6年10月〕	価格差 ①－②
①	②	③	④	⑤
静岡	きぬむすめ	21,684	14,438	+ 7,246
静岡	にこまる	23,704	14,407	+ 9,297
新潟	コシヒカリ（一般）	23,378	16,927	+ 6,451
新潟	コシヒカリ（魚沼）	26,022	20,758	+ 5,264
新潟	コシヒカリ（佐渡）	23,731	17,441	+ 6,290
新潟	コシヒカリ（岩船）	23,122	17,325	+ 5,797
新潟	こいしぶき	22,613	14,596	+ 8,017
富山	コシヒカリ	24,848	15,915	+ 8,933
富山	てんたかく	23,728	14,920	+ 8,808
石川	コシヒカリ	22,663	15,678	+ 6,985
石川	ゆめみづほ	21,903	14,415	+ 7,488
福井	コシヒカリ	21,352	15,380	+ 5,972
福井	ハナエチゼン	21,083	13,881	+ 7,202
福井	あきさかり	21,128	14,185	+ 6,943
岐阜	ハツシモ	25,408	15,087	+ 10,321
岐阜	コシヒカリ	24,530	16,144	+ 8,386
岐阜	ほしじるし	24,080	13,929	+ 10,151
愛知	あいちのかおり	23,421	14,479	+ 8,942
愛知	コシヒカリ	-	-	-
愛知	大地の風	-	-	-
三重	コシヒカリ（一般）	23,088	14,716	+ 8,372
三重	コシヒカリ（伊賀）	23,670	15,085	+ 8,585
三重	キヌヒカリ	22,312	13,563	+ 8,749
滋賀	コシヒカリ	23,522	15,271	+ 8,251
滋賀	キヌヒカリ	23,943	13,965	+ 9,978
滋賀	みずかがみ	23,080	14,915	+ 8,165
京都	コシヒカリ	22,529	15,502	+ 7,027
京都	キヌヒカリ	19,694	14,057	+ 5,637
京都	ヒノヒカリ	20,779	15,970	+ 4,809
兵庫	コシヒカリ	23,427	15,492	+ 7,935
兵庫	ヒノヒカリ	22,549	14,074	+ 8,475
兵庫	キヌヒカリ	22,012	13,986	+ 8,026
奈良	ヒノヒカリ	21,610	14,389	+ 7,221
鳥取	きぬむすめ	22,247	14,404	+ 7,843
鳥取	コシヒカリ	21,814	15,005	+ 6,809
鳥取	ひとめぼれ	21,927	14,243	+ 7,684
島根	きぬむすめ	19,890	14,117	+ 5,773
島根	コシヒカリ	20,744	14,978	+ 5,766
島根	つや姫	20,441	14,743	+ 5,698
岡山	アケボノ	24,993	13,208	+ 11,785

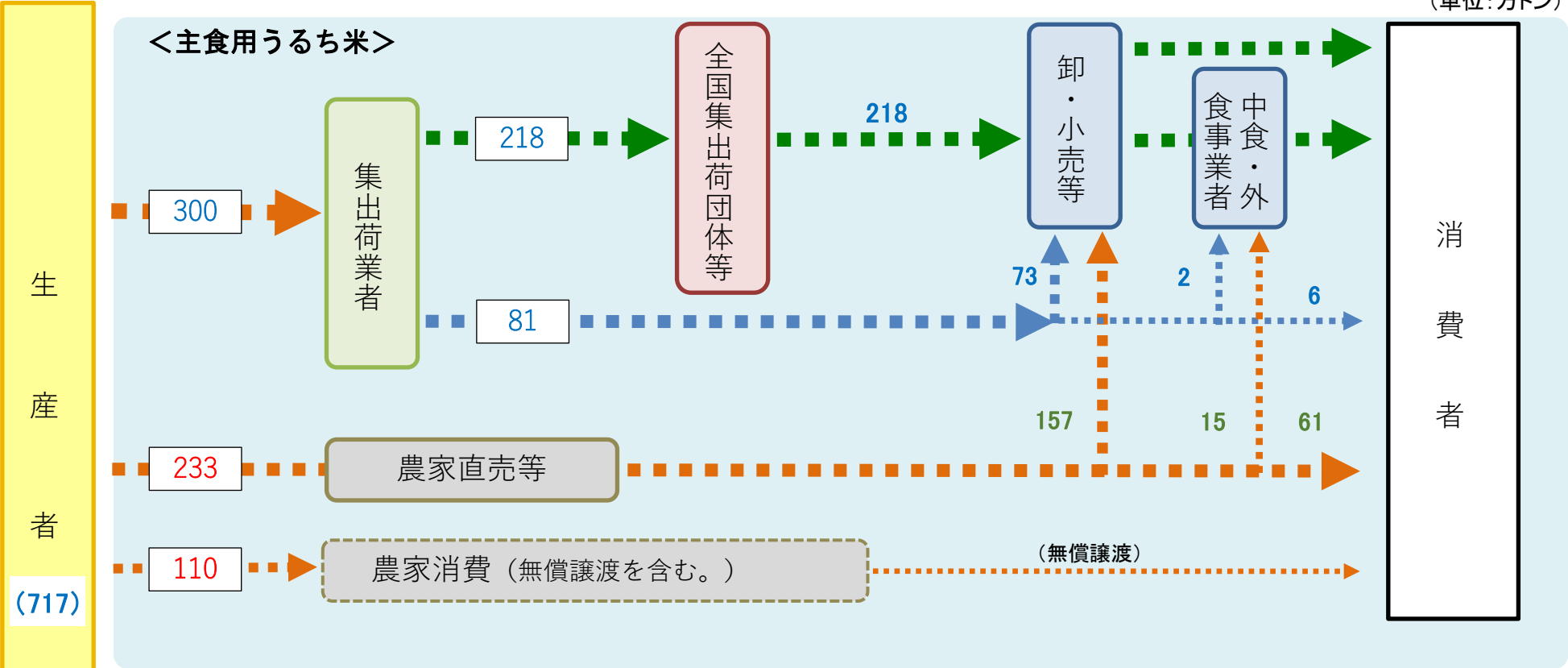
産地品種銘柄		令和6年産 〔出回り～ 7年6月〕	令和5年産 〔出回り～ 6年10月〕	価格差 ①－②
①	②	③	④	⑤
岡山	きぬむすめ	23,402	13,793	+ 9,609
岡山	コシヒカリ	24,188	14,533	+ 9,655
広島	コシヒカリ	22,244	14,550	+ 7,694
広島	あきさかり	20,906	13,857	+ 7,049
広島	あきろまん	21,319	13,956	+ 7,363
山口	コシヒカリ	22,574	14,918	+ 7,656
山口	ひとめぼれ	21,999	14,071	+ 7,928
山口	きぬむすめ	22,184	14,000	+ 8,184
徳島	コシヒカリ	23,206	14,137	+ 9,069
徳島	あきさかり	22,630	13,426	+ 9,204
香川	コシヒカリ	22,515	15,325	+ 7,190
香川	ヒノヒカリ	22,552	14,569	+ 7,983
香川	あきさかり	22,127	14,245	+ 7,882
愛媛	コシヒカリ	21,308	14,310	+ 6,998
愛媛	ヒノヒカリ	23,604	13,878	+ 9,726
愛媛	あきたこまち	20,885	13,596	+ 7,289
高知	コシヒカリ	22,339	14,922	+ 7,417
高知	ヒノヒカリ	21,367	13,634	+ 7,733
福岡	夢つくし	23,547	15,458	+ 8,089
福岡	ヒノヒカリ	24,499	14,139	+ 10,360
福岡	元気つくし	25,157	15,434	+ 9,723
佐賀	さがびより	22,292	14,873	+ 7,419
佐賀	夢しずく	21,743	14,377	+ 7,366
佐賀	ヒノヒカリ	-	14,121	-
長崎	にこまる	24,175	14,584	+ 9,591
長崎	なつほのか	23,777	14,209	+ 9,568
長崎	ヒノヒカリ	23,569	14,331	+ 9,238
熊本	ヒノヒカリ	25,899	14,821	+ 11,078
熊本	森のくまん	-	14,442	-
熊本	コシヒカリ	24,217	15,242	+ 8,975
大分	ヒノヒカリ	24,252	14,454	+ 9,798
大分	なつほのか	24,366	-	-
大分	ひとめぼれ	24,229	14,574	+ 9,655
宮崎	コシヒカリ	22,600	14,582	+ 8,018
宮崎	ヒノヒカリ	27,076	15,219	+ 11,857
鹿児島	ヒノヒカリ	29,898	14,763	+ 15,135
鹿児島	あきほなみ	33,120	15,115	+ 18,005
鹿児島	コシヒカリ	21,140	14,670	+ 6,470
全銘柄平均価格		24,751	15,315	+ 9,436

注1：農林水産省が調査・公表した出回りからの年産平均価格（令和6年産は出回りから7年6月までの速報値）であり、調査対象事業者は、一定規模以上の集荷業者（年間の販売数量5,000トン以上等）。

2：運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。なお、価格に含む消費税は、軽減税率の対象である米穀の包装代などの品代等は8%、運賃等は10%で算定している。

3：「－」については、当該年産において報告対象としていない産地品種銘柄又は取引数量の累計が100トン未満であり、公表を行っていないもの。

米の流通経路別流通量の状況（令和5年産米）



<その他>

74 加工用米等、もち米等(集荷業者を通じて実需者に販売)

資料：農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀在庫等調査」、「農林業センサス」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に推計。

注1：集出荷業者には、全集連系を含む（JA等への出荷量300万トンのうち20万トンが全集連系）。

注2：「卸・小売等」には、加工事業者等を含む。

注3：ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

(参考) 入手経路別の購入割合 (複数回答) 対前年比

スーパーマーケット	50.1% (±0.0%)
その他の小売店	21.6% (+0.4%)
産地直売所	1.9% (+0.5%)
インターネット	8.6% (▲0.3%)
生産者から直接購入	4.8% (+0.2%)
無償譲渡	15.3% (±0.0%)

※ 米穀安定供給確保支援機構調べを元に農林水産省で算出（令和5年4月から令和6年3月の年平均）

米の流通の状況（平成16年～令和5年産米）

【生産段階】

(単位:万トン)

年産	生産量		出荷・販売		農家消費等		その他		加工用米等		もち米		減耗	
H16	872	100.0%	636	72.9%	180	20.6%	56	6.4%	12	1.4%	27	3.1%	17	1.9%
17	906	100.0%	653	72.1%	183	20.2%	62	6.8%	13	1.4%	31	3.4%	18	2.0%
18	855	100.0%	631	73.8%	165	19.3%	59	6.9%	15	1.8%	27	3.2%	17	2.0%
19	871	100.0%	632	72.6%	174	20.0%	65	7.5%	17	2.0%	31	3.6%	17	2.0%
20	882	100.0%	636	72.1%	172	19.5%	64	7.3%	16	1.8%	30	3.4%	18	2.0%
21	847	100.0%	624	73.7%	161	19.0%	62	7.3%	16	1.9%	29	3.4%	17	2.0%
22	848	100.0%	594	70.0%	174	20.5%	71	8.3%	22	2.6%	32	3.8%	17	2.0%
23	840	100.0%	604	71.9%	170	20.2%	66	7.9%	16	2.0%	33	3.9%	17	2.0%
24	852	100.0%	616	72.3%	167	19.5%	69	8.1%	19	2.2%	33	3.9%	17	2.0%
25	860	100.0%	626	72.8%	165	19.2%	69	8.0%	21	2.4%	31	3.6%	17	2.0%
26	844	100.0%	616	73.1%	154	18.3%	73	8.7%	27	3.2%	30	3.5%	17	2.0%
27	799	100.0%	579	72.5%	146	18.3%	74	9.2%	25	3.1%	33	4.1%	16	2.0%
28	804	100.0%	582	72.3%	146	18.1%	77	9.6%	26	3.2%	35	4.4%	16	2.0%
29	782	100.0%	569	72.8%	139	17.7%	74	9.5%	26	3.3%	33	4.2%	16	2.0%
30	778	100.0%	576	74.0%	130	16.7%	73	9.3%	28	3.6%	29	3.7%	16	2.0%
R元	776	100.0%	577	74.3%	129	16.6%	70	9.1%	27	3.4%	28	3.7%	16	2.0%
2	776	100.0%	580	74.7%	124	16.0%	72	9.3%	28	3.5%	29	3.8%	16	2.0%
3	756	100.0%	561	74.2%	121	16.0%	74	9.8%	28	3.7%	31	4.1%	15	2.0%
4	727	100.0%	537	73.9%	115	15.8%	75	10.3%	29	4.0%	31	4.2%	15	2.0%
5	717	100.0%	533	74.3%	110	15.4%	74	10.3%	29	4.0%	30	4.2%	14	2.0%

【出荷・販売段階】

(単位:万トン)

年産	出荷・販売		農協						全集連系業者						生産者 直接販売等	
			販売委託		直販		販売委託		直販							
H16	636	72.9%	390	44.7%	350	40.1%	40	4.6%	20	2.3%	7	0.8%	12	1.4%	226	25.9%
17	653	72.1%	405	44.7%	352	38.9%	53	5.8%	22	2.4%	8	0.9%	13	1.4%	226	24.9%
18	631	73.8%	384	44.9%	320	37.4%	64	7.5%	21	2.5%	9	1.1%	13	1.5%	227	26.5%
19	632	72.6%	378	43.4%	308	35.4%	70	8.0%	21	2.4%	9	1.0%	13	1.5%	232	26.6%
20	636	72.1%	390	44.2%	303	34.4%	87	8.9%	21	2.4%	8	0.9%	14	1.6%	224	25.4%
21	624	73.7%	372	43.9%	294	34.7%	78	8.2%	22	2.6%	7	0.8%	15	1.8%	230	27.2%
22	594	70.0%	369	43.5%	285	33.6%	84	8.9%	21	2.5%	6	0.7%	15	1.8%	203	24.0%
23	604	71.9%	351	41.8%	266	31.7%	85	10.1%	21	2.5%	6	0.8%	15	1.8%	232	27.6%
24	616	72.3%	352	41.3%	273	32.1%	79	8.3%	21	2.4%	6	0.7%	15	1.8%	243	28.6%
25	626	72.8%	373	43.4%	293	34.0%	81	8.4%	22	2.6%	7	0.8%	15	1.8%	231	26.8%
26	616	73.1%	369	43.7%	285	33.8%	84	10.0%	24	2.8%	9	1.0%	15	1.8%	223	26.5%
27	579	72.5%	344	43.1%	258	32.3%	86	10.7%	22	2.7%	7	0.9%	14	1.8%	213	26.7%
28	582	72.3%	338	42.1%	252	31.3%	86	10.8%	22	2.7%	6	0.8%	16	1.9%	221	27.5%
29	569	72.8%	315	40.3%	234	28.9%	81	10.4%	20	2.6%	5	0.7%	15	1.9%	234	29.9%
30	576	74.0%	298	38.4%	219	28.1%	80	10.2%	19	2.4%	5	0.6%	13	1.7%	259	33.3%
R元	577	74.3%	308	39.7%	231	29.7%	77	10.0%	21	2.7%	6	0.8%	14	1.9%	247	31.9%
2	580	74.7%	312	40.2%	242	31.2%	70	9.0%	21	2.7%	6	0.8%	15	1.9%	246	31.7%
3	561	74.2%	303	40.1%	240	31.7%	63	8.4%	21	2.7%	5	0.7%	15	2.0%	238	31.4%
4	537	73.9%	284	39.0%	220	30.2%	64	8.8%	19	2.6%	4	0.6%	14	2.0%	235	32.3%
5	533	74.3%	279	39.0%	214	29.9%	66	9.2%	20	2.8%	4	0.6%	16	2.2%	233	32.5%

資料：農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀現在高等調査」（22年産以降は「生産者の米穀在庫等調査」）、「農林業センサス」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に推計。

- 注：1）平成21年産までの推計に用いた「生産者の米穀現在高等調査」と22年産以降の推計に用いている「生産者の米穀在庫高等調査」では調査対象農家の定義が異なる（前者は10a以上稲を作付（子実用）している農家、後者は販売目的の水稻の作付面積が10a以上の販売農家が対象）ことから、22年産から推計手法を変更している。
- 2）生産段階には、このほか、①集荷円滑化対策による区分出荷米（17年産8万トン、20年産米10万トン）、②品質低下に伴う歩留り減（22年産米10万トン）がある。
- 3）ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。